

# At a Glance

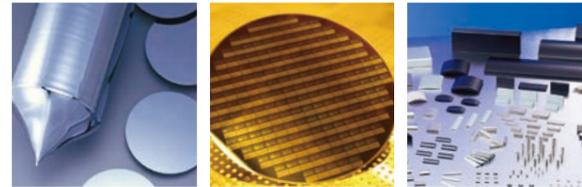
## 事業構成



塩化ビニル樹脂

### ■ 生活環境基盤材料事業

上下水道などのインフラ(社会基盤)から、住宅、農業、生活用品まで、私たちの生活に欠かせない塩化ビニル樹脂(塩ビ)のほか、か性ソーダ、ポパールなどを提供しています。中でも塩ビは、米国、欧州、日本の3拠点で合わせて年産444万トンの生産能力を有し、世界中に安定供給を行っています。



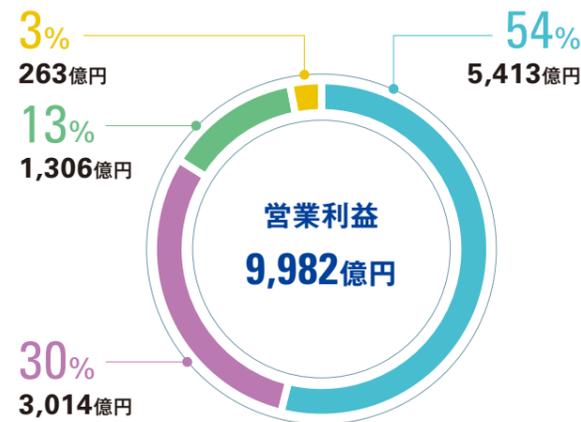
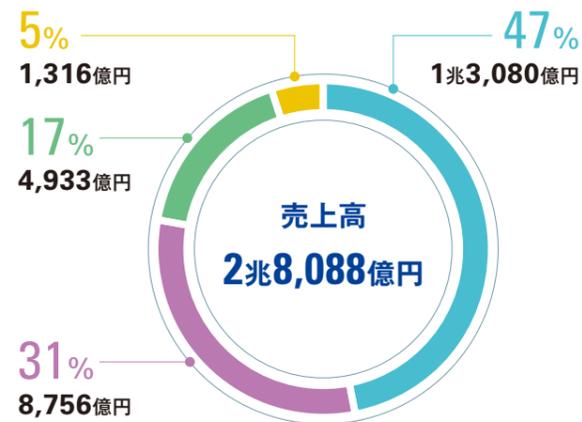
シリコンウエハー

フォトレジスト

レア・アースマグネット

### ■ 電子材料事業

半導体の基幹材料であるシリコンウエハーを筆頭に、半導体製造工程に使用されるフォトレジスト、フォトマスクブランクス、封止材料などを生産しています。環境対応車や電化製品などに使われるモータの省電力化に不可欠なレア・アースマグネットや、光ファイバーの原料などに使用される高純度の合成石英等も供給しています。



■生活環境基盤材料事業 ■電子材料事業 ■機能材料事業 ■加工・商事・技術サービス事業

(2023年3月期)



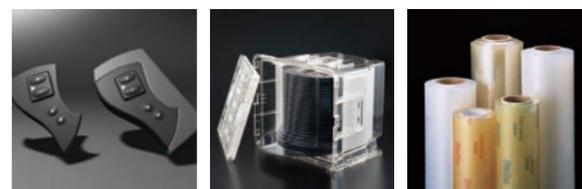
シリコン

セルロース誘導体

金属ケイ素

### ■ 機能材料事業

幅広い産業で使われるシリコンは、1953年に日本で初めて事業化して以来開発を重ね、現在では5,000種を超える製品を取りそろえています。また、医薬・食品・工業用など用途が多岐にわたるセルロース誘導体をはじめ、合成性フェロモン、金属ケイ素、液状フッ素エラストマー、ペリフル、負極材など、より良い機能を実現する多彩な製品を提供しています。



入カデバイス

ウエハーケース

ラッピングフィルム

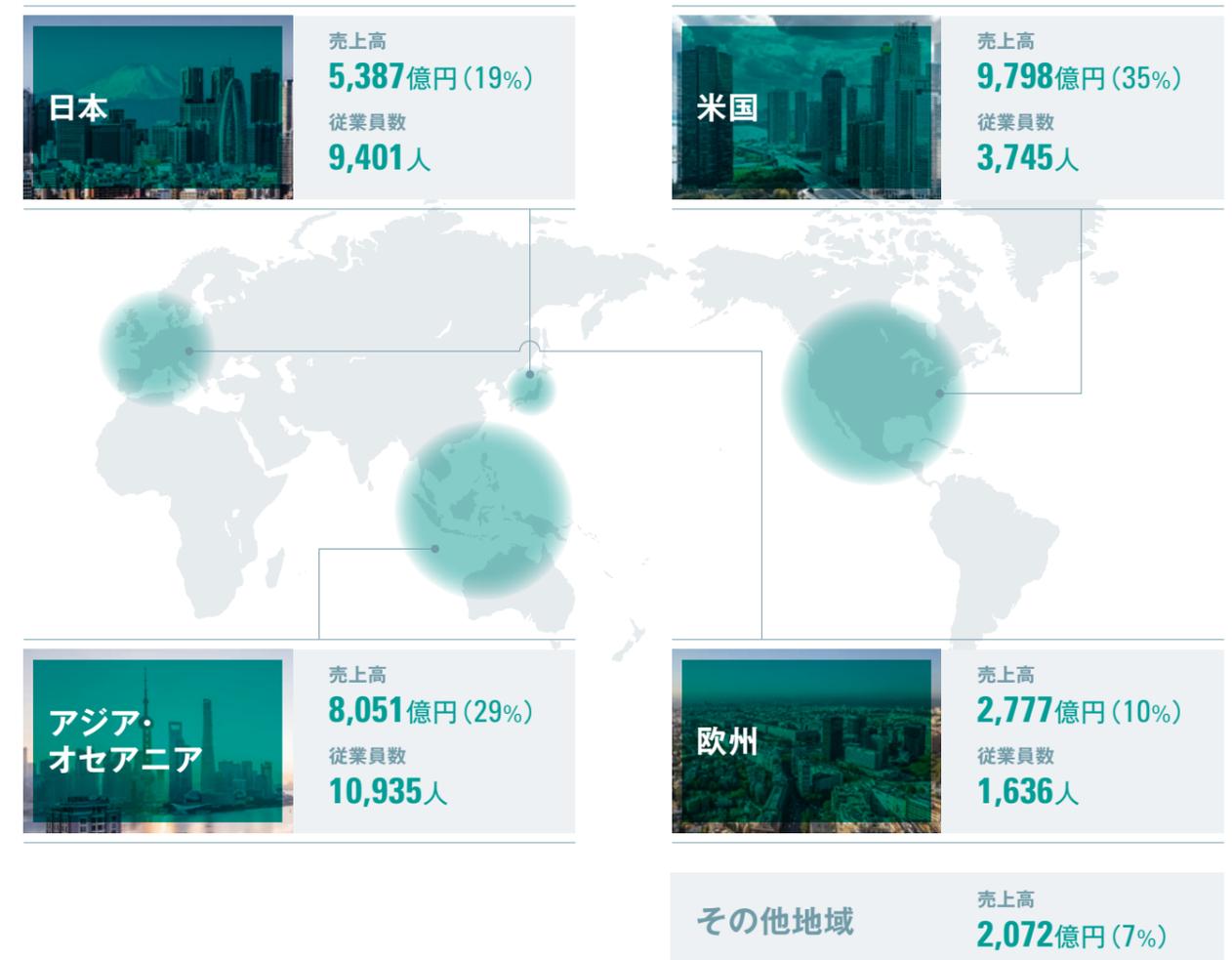
### ■ 加工・商事・技術サービス事業

信越ポリマー(株)は、塩ビ、シリコンなど各種樹脂の加工メーカーとして、自動車、情報機器、半導体、包装資材、建設資材などの幅広い分野で、お客さまの多様なニーズに応えています。信越エンジニアリング(株)は、主に当社グループの製造工場の設計、建設事業を手掛けています。

## プロフィール (2023年3月期)



## 地域別売上高・従業員数 (2023年3月期)

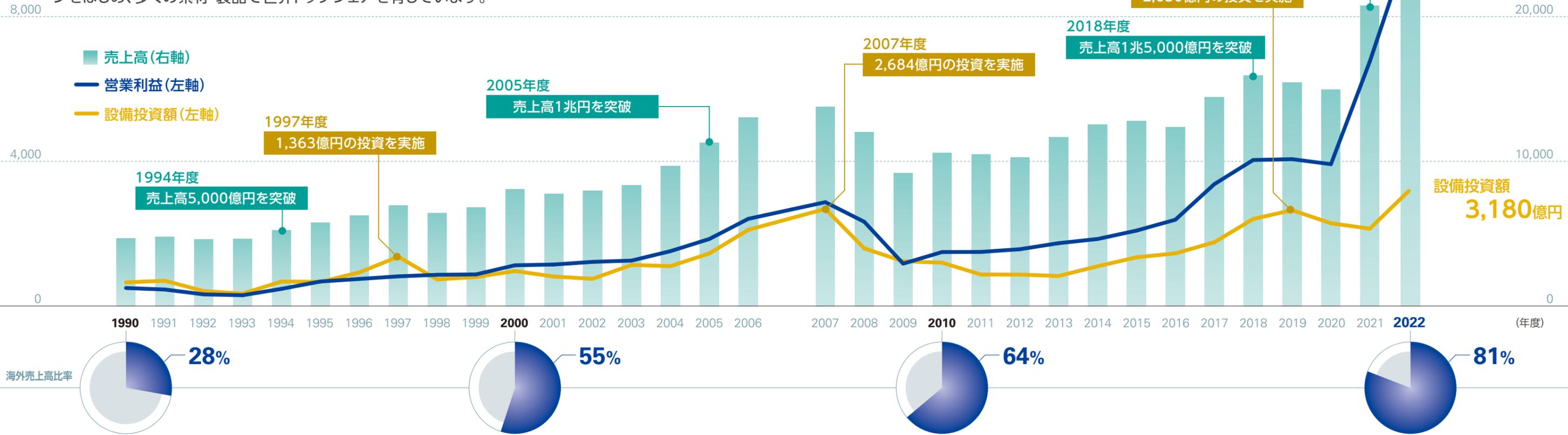


(億円)  
12,000

2022年度 (億円)  
30,000

# 事業基盤確立・強化のあゆみ

当社グループは、1926年に信越窒素肥料(株)として発足して以来、絶えず未来を見据えて事業変革を進めてきました。現在では、塩ビ、半導体シリコンをはじめ、多くの素材・製品で世界トップシェアを有しています。



## 主な設備投資・事業化の沿革

### 事業基盤の形成



生産開始当初のシリコン製品

### 1950~60年代

- 塩ビの生産開始
- シリコンウエハーの生産開始
- シリコンの生産開始
- セルロースの生産開始

### 既存事業の強化と国際展開



シンテック社長に就任した頃の金川前会長 (前列右から2人目)

シンテック・フリーポート工場 (米国テキサス州)

### 1970~80年代

- 米国テキサス州で塩ビの生産開始
- 半導体シリコン事業の海外展開(マレーシア・米・英)
- シリコン事業の海外展開(米・韓・台・蘭)
- レア・アースマグネットの生産開始
- 光ファイバー用プリフォームの生産開始

### 企業体質の改革、国際競争力の強化



信越半導体白河工場

### 1990~2000年代

- 欧州で塩ビ事業、セルロース事業を買収
- 米国ルイジアナ州で塩ビの2工場建設
- 300mmシリコンウエハーの量産開始
- タイでシリコンモノマーとポリマーの生産開始
- フォトレジスト、フォトマスクブランクス事業化

### 新たな成長戦略の展開



2020年に操業を開始したシンテックのエチレン工場 (米国ルイジアナ州)

### 2010~20年代

- 米国でエチレンの生産開始(塩ビの原料からの一貫生産体制の構築による安定的かつ柔軟な製品供給)
- ベトナムでレア・アースマグネットの一貫生産開始
- 低誘電樹脂(5G関連製品)の量産開始
- リチウムイオン電池用負極材を事業化

# 信越化学の競争優位性

当社グループは、世界で高い市場シェアの製品群を供給し、収益力を向上させることで強固な財務基盤を築いてきました。

強み

## 1 トップシェア

塩ビや半導体シリコンをはじめ、社会を支える重要な素材で高い市場シェアを確保しています。



塩化ビニル樹脂  
(塩ビ)

世界 1 位



半導体シリコン  
(シリコンウエハー)

世界 1 位



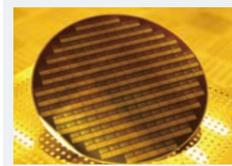
シリコン

国内 1 位  
世界 4 位



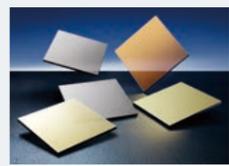
セルロース誘導体  
(メチルセルロース)

世界 2 位



フォトレジスト

世界 2 位



フォトマスク  
ブランクス

世界 2 位



合成石英  
(液晶用フォトマスク基板)

世界 1 位



合成性フェロモン

世界 1 位

(信越化学調べ)

強み

## 2 高い収益力と強固な財務基盤

競争力のある製品群と生産性向上に向けたたゆまぬ努力により、高い収益性を実現しています。

売上高 営業利益率	ROIC	ROE	純資産	自己資本比率
35.5%	33.6%	19.7%	4兆262億円	81.8%

(2023年3月期)

詳細はP.15財務資本をご覧ください。



強み

## 3 三位一体のモノづくり

当社のモノづくりは、お客さまに密着した営業と、同一敷地内にある開発と製造が「三位一体」となってスピーディーにお客さまのニーズに応えています。



当社の研究開発拠点は全て工場と同一敷地内にあり、営業から得たお客さまニーズに対し、開発と製造が常にスムーズに連携できる体制となっています。お客さまのニーズに合わせた製品を迅速に開発するとともに、製造部門との連携のもと、工場設備を利用して品質の安定化と量産化へ向けての実践的な開発と試作を行っています。

詳細はP.16製造資本、P.22知的資本をご覧ください。

強み

## 4 高い生産性

最適な人員構成と効率的なプロセスを追求した設備投資により高い生産性を実現しています。

当社グループでは、深い専門性を持つ人材を適切に配置することで、社員の能力を最大限に生かす無駄のない組織体制を築いています。また、既存設備の更新・改良や新增設の際には効率の良い方法を徹底追求することで生産性の向上に努めています。



詳細はP.16製造資本、P.18人的資本をご覧ください。

# 価値創造プロセス

当社グループは「営業、開発、製造の三位一体のモノづくり」を強みとして、産業や生活に不可欠な素材で他の追従できない価値を生み出し、社会課題の解決に貢献しています。

## 競争優位の源泉

P.14



財務資本



製造資本



人的資本



知的資本



社会・関係資本



自然資本

## ビジネスアクティビティ

P.31



## 経営基盤

コーポレートガバナンス

P.44

## サステナビリティ

P.52



## 創出価値

2023年3月31日現在

営業利益	9,982億円
当期純利益	7,082億円
ROIC	33.6%
ROE	19.7%
1株当たり 配当金 <sup>*1</sup>	500円
過去5年間の TSR	209% (TOPIX132%)
時価総額	2013年3月末 2兆7,007億円 ↓ 2023年3月末 8兆6,531億円
格付け ムーディーズ (長期)	Aa3
売上高に占める 環境製品比率 <sup>*2</sup>	約7割
温室効果ガス 排出量原単位 (1990年度比)	45.8%削減
海外売上高 比率	80.8%
無形資産価値 比率 <sup>*3</sup>	53.4%

<sup>\*1</sup> 2023年4月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行いました。「1株当たり配当金」は、基準日が株式分割日(2023年4月1日)前のため、分割前の株式に対する額を記載しています。

<sup>\*2</sup> 2021年に日本政府が提示した「カーボンニュートラルの実現に不可欠な14分野」に貢献する製品。

<sup>\*3</sup> 資本市場での無形資産価値の評価を示す指標。無形資産価値比率=(無形固定資産(簿価)+時価総額-純資産(簿価))/時価総額

## 目指す姿

### 地球の未来への貢献

#### 接続性

AI、IoT、  
5G、メタバース

半導体シリコン、シリコン、  
光ファイバー用プリフォーム、  
低誘電樹脂など



#### スマートインフラ

インフラ整備

塩化ビニル樹脂、  
セルロース誘導体、  
シリコン



#### 生産性の向上

ロボット、  
産業用モータ

半導体シリコン、  
レア・アースマグネット、  
シリコンなど



#### 健康増進

医薬材料、  
医療器具機器材料

セルロース誘導体、  
ポパール、シリコン、  
レア・アースマグネット



食品、衛生

合成性フェロモン、  
セルロース誘導体、  
光触媒



#### 資源効率

電気自動車

レア・アースマグネット、  
リチウムイオン電池用負極材、  
シリコンなど



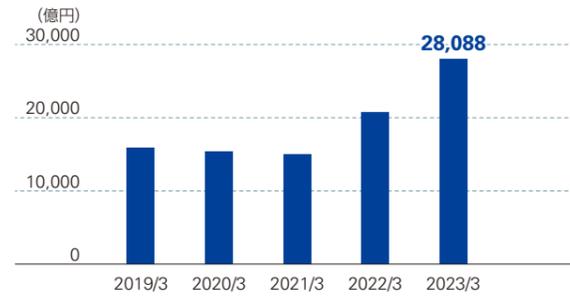
省エネ家電、  
再生可能エネルギー

レア・アースマグネット、  
半導体シリコン、シリコン、  
LED用パッケージ材料など



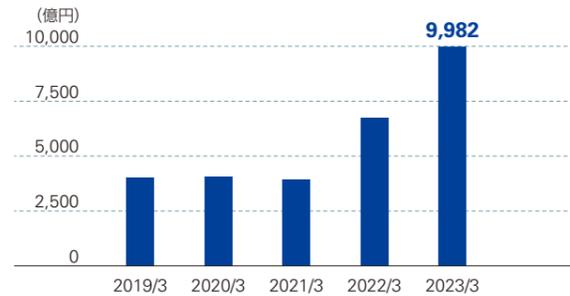
## 財務ハイライト

### 売上高



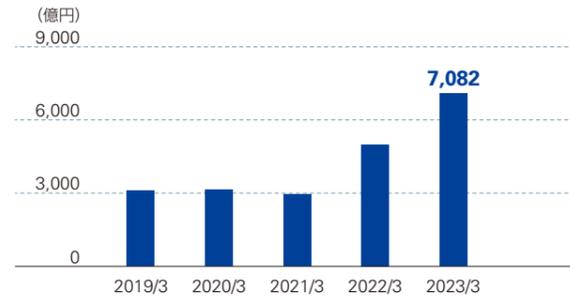
2023年3月期(2022年度)の連結売上高は、塩ビ樹脂をはじめとした販売数量の増加や市況変動をきめ細かく反映した価格交渉等により、前年度比35.4%増と2期連続で30%を超える伸びを実現しました。

### 営業利益



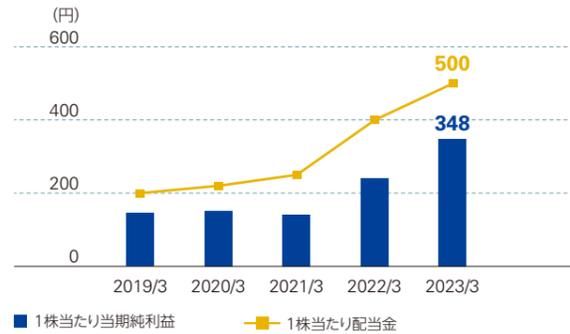
2022年度の連結営業利益は前年度比47.6%増と、前年度の過去最高益を大きく上回りました。全ての事業セグメントで二桁の増益を達成しましたが、特に生活環境基盤材料事業は70.3%増の伸びで全体をけん引しました。

### 親会社株主に帰属する当期純利益



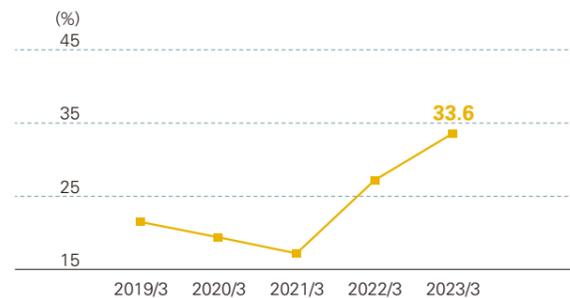
2022年度の親会社株主に帰属する当期純利益は、営業利益の大幅増加に伴い、前年度比41.6%増と過去最高を大きく更新しました。

### 1株当たり当期純利益／1株当たり配当金(注)



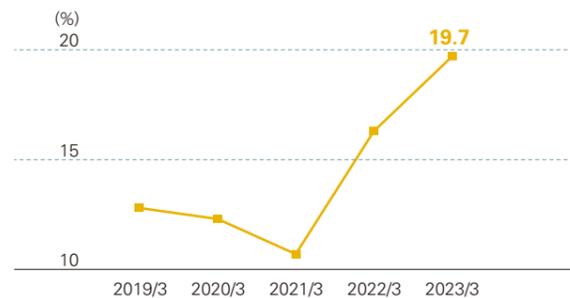
1株当たり当期純利益の大幅増加を踏まえ、2022年度の1株当たり年間配当金は前年度比100円増とし、8期連続の増配(配当性向28.7%)を実現しました。

### ROIC



2022年度のROICは、税引後営業利益の大幅増加により、前年度比6.4ポイント上昇しました。

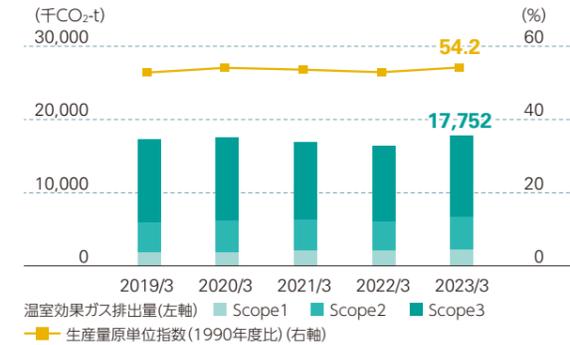
### ROE



2022年度のROEは、自己資本が前年度比16.3%増加しましたが、親会社株主に帰属する当期純利益の大幅増加により、3.4ポイント上昇しました。

## 非財務ハイライト

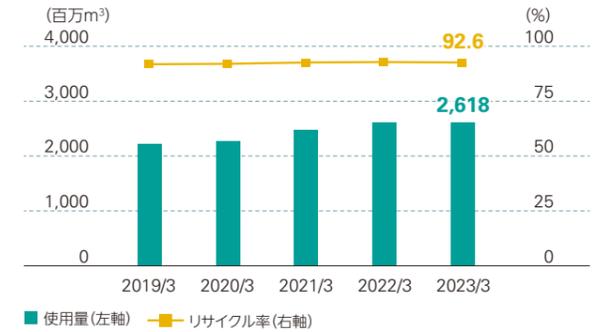
### 温室効果ガス排出量／生産量原単位指数\*



2025年度に温室効果ガス生産量原単位指数を1990年度比で45%に削減し、2050年には温室効果ガス排出量(Scope1、2)実質ゼロの実現に向けて取り組んでいます。

\*生産量原単位指数は、Scope1、Scope2に対する指数。

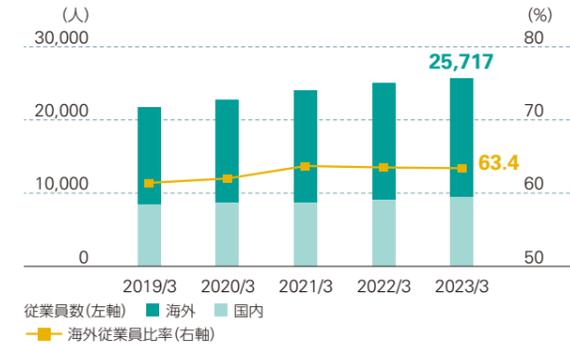
### 水の使用量\*／リサイクル率



製品の製造には大量の水を必要とするため、「取水量を原単位で平均年率1%削減する」という目標を掲げ、水のリサイクルや雨水の有効活用等を徹底しています。

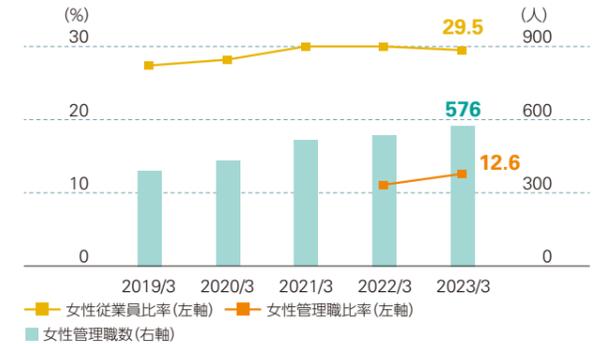
\*取水量と循環水量の合計。

### 従業員数／海外従業員比率



国際労働基準にのっとり、毎年、連結会社に対して人権尊重に関する項目や労務管理、雇用が各国や地域の法令に従って適正に実施されているかを調査し、法令遵守を徹底しています。

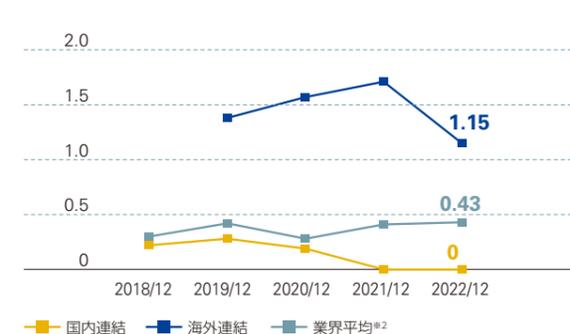
### 女性従業員比率／女性管理職数・比率\*



女性の活躍を推進するため、2025年度に「採用時の女性比率を事務系40%、技術系10%とする」、「係長を含む女性の管理職者の数を2014年度比で4倍にする」という目標を掲げています。

\*女性管理職比率は、2022年3月期から集計。

### 休業災害度数率\*1

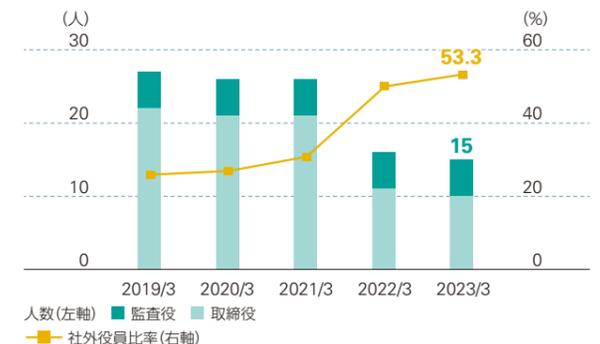


2022年も重大事故はありませんでしたが、海外グループ会社で57件の休業災害があり、それぞれの要因解析を行って速やかに対策を講じました。

\*1 休業災害度数率は暦年で集計。

\*2 日本化学工業協会(日化協)が集計している日本国内の化学業界の平均値。

### 取締役・監査役人数／社外役員比率



2021年度に取締役会を大幅にスリム化するとともに社外役員比率を高め、経営環境の変化に即応できる体制と監視機能の強化を図りました。

(注)2023年4月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行いました。「1株当たり当期純利益」は、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」に基づき2019年3月期から分割後の株式数により算出しています。「1株当たり配当金」は、基準日が株式分割日(2023年4月1日)前のため、分割前の株式に対する額を記載しています。